

くすのき



～ 令和6年度全国学力・学習状況調査の結果分析と改善の取組について ～

全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証して改善を図るため、令和6年4月18日、6年生を対象に「全国学力・学習状況調査」が行われました。実施日時が4月であるため、5年生までの学習状況の調査となります。調査結果の分析と教育活動の改善を下記にまとめておりますのでご覧ください。なお、全国の調査結果詳細は、国立教育政策研究所ホームページに掲載しております。

□結果分析

1 教科（国語科・算数科）に関する調査

【全般的傾向】今年度の氷丘小学校の平均正答率は、国語科は全国平均・兵庫県平均をやや下回り、算数科は全国平均・兵庫県平均を上回りました。2教科とも、基礎・基本の定着はある程度見られましたが、知識を活用する段階でつまづいている傾向が見られたり、選択解答に比べ記述解答を苦手にしていたりする傾向が見られました。

【国語科】 ○…優れている項目 △…課題となる項目

- 目的や意図に応じて、伝えたいことを明確にすること
- 主語と述語との関係をとらえること
- 物語文の人物像・全体像を想像すること
- △資料を活用し、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること
- △説明文において、述べられている事実と筆者の感想を区別して考えること
- △描写を基に登場人物の相互関係や心情を捉えること
- △読書活動への関心・意欲

【算数科】

- 数量の関係を□を用いた式に表すこと
- 円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ること
- 除法（割り算）の計算
- △面積や体積を求めること
- △速さなどの単位量当たりの大きさについて考察すること
- △表やグラフから必要な情報を読み取り、条件にあてはまることを記述すること



2 質問紙調査

- ・「自分には、よいところがある」と回答した児童は90,2%、「普段の生活の中で幸せな気持ちになることはある」と回答をした児童は95,6%であった。しかし、否定的な回答をした児童に対する支援が必要。
- ・「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と回答した児童は、71,7%に及ぶが、28,3%の児童が相談できないでいることが課題。
- ・「国語の勉強が好き」と回答した児童の割合は60,2%、「算数の勉強が好き」は61,1%、「英語の勉強が好き」は66,4%、「理科の勉強が好き」が87,6%となった。教科によってバラつきが見られ、引き続きすべての教科で授業改善が求められる。
- ・「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思う」と回答した児童は78,7%であった。主体的に取り組めていない児童も一定数いるので、自ら学習に取り組めるような手立てが必要。
- ・授業でのICT機器の使用頻度が「ほぼ毎日」と回答した児童が16,8%、「週3回以上」が39,8%と昨年度と比べ、向上している。

□改善の取組

- ・「考えたことを整理して伝えることができるよう、話し合い活動の充実」、「基礎・基本の定着、わかる授業」等、課題に対する取組を「学習部会」「研究推進委員会」「学年会」で検討し、全職員で共有する。
- ・「思考力・判断力・表現力」を伸ばすため、協同的探究学習を取り入れた授業改善を行う。
- ・主体的な学習でのICT機器の効果的な活用を推進するため、教職員において研鑽を深める。
- ・読書活動が自分の考えを広げることに役立つということに気付けるよう、児童自らが読書啓発活動を行うようにする。
- ・児童の生活満足度を高めるため、これまで以上に学校・家庭・地域が連携して児童を見守る。
- ・自己肯定感が低い児童については、児童支援担当教員を中心に個別の相談体制を整え、対応する。